mediford
A Member of PHC Group

膵癌オルガノイドが拓く次世代薬効評価の新展開

無料ウェビナー

2026 11/27(金)
15:00–16:00



演題1 サルスサイエンス株式会社 代表取締役 谷内 恵介 先生

CDX・PDXモデルの限界を克服する次世代薬効評価：ヒト膵癌オルガノイド移植マウスがもたらす創薬プロセスの革新とリスクヘッジ

現在の膵癌創薬では、CDXモデルの迅速性やPDXモデルの高い臨床再現性が広く活用される一方で、研究目的や開発ステージによっては、さらなる評価系の選択肢が求められています。本ウェビナーでは、新たに開発した「ヒト膵癌オルガノイド移植マウス」をご紹介します。本モデルは、ヒト膵癌に特徴的な豊富な癌間質を再現しながら、最短4〜6週間での薬効評価を可能としました。CDXのスピーディーさとPDXの臨床再現性を両立した本モデルの導入が、第1/2相試験での失敗リスクをいかに低減させ、皆様の創薬研究を加速させるかについて解説します。

サルスサイエンス株式会社
代表取締役
谷内 恵介 先生

高知医科大学（現 高知大学）医学部卒業後、消化器内科医として臨床に従事。東京大学医科学研究所および米国ネブラスカ大学エプレイ癌センターで膵癌研究に携わり、現在は高知大学医学部 消化器内科学講座 准教授。2022年に大学発ベンチャー「サルスサイエンス株式会社」を設立し、膵癌オルガノイドを活用した薬効評価モデルの開発と創薬研究を推進している。

演題2 メディフォード株式会社 創薬イノベーションセンター
研究第１ユニット がん・細胞アッセイグループ 榎 成憲

メディフォードにおける抗腫瘍試験のご紹介

メディフォードでは、2000年より細胞株由来腫瘍（CDX）モデルを用いた抗腫瘍試験、2016年より患者由来腫瘍移植（PDX）モデルを用いた抗腫瘍試験を受託しています。本ウェビナーでは、当社における抗腫瘍評価体制ならびにPDX試験の実施概要をご紹介するとともに、近年活用が進むIVISを用いた非侵襲的な評価事例についてご紹介します。各種モデルの特長を踏まえた薬効評価の取り組みについて、ご理解を深めていただければ幸いです。

お申し込みはこちら

https://pages.mediford.com/EV-MDF_20261127_01_LP_EVregistration98fj6r4.html

お問い合わせ｜マーケティング事務局
メディフォード株式会社
medf-dds-ddsso@gg.mediford.com
〒174-0053 東京都板橋区清水町 36 番 1 号